

シニアのICT利活用の伸びしろ「カルチャースクール」に可能性が！

～シニアの日々の活動とICT利用には密接な関係が見えてきた～

株式会社NTTドコモ モバイル社会研究所

目次

調査結果1・2：シニアの日々の活動単集計及びグループ分け

調査結果3：グループ別にみるICT利活用

■ 調査結果

1 ——— アクティブシニアの実態 6割が仲間・家族と交流

アクティブシニアが、地域活動やカルチャースクールで元気に活躍する姿をよくみかける。モバイル社会研究所では、シニアの日々の活動の実態を把握するため、「社会活動への参加」「カルチャースクールへの参加」「人との交流」それぞれ2つずつの質問を回答してもらうことで全体像の実態を掴むこととした。

日々の活動		おこなっている・交流している
人との交流	家族親戚との交流	56%
	仲間・友達との交流	62%
カルチャー スクール	体を動かす教室	22%
	教養・芸術・料理などの教室	20%
地域活動	奉仕・ボランティア活動	26%
	自治体・町内会などの活動	37%

その結果、人との交流で約6割、地域活動やカルチャースクールでも約3割が参加・交流していると答えた。また、女性の方が総じて男性より高く、70代前半が最も高い傾向であった。この結果からも、シニアのアクティブな日々の活動が垣間見られた。

図1 シニアの日々の活動

2 ——— 日々の活動、積極派から消極派まで存在

日々の活動の回答の特徴を元に、シニアをグループ分けした結果が図2の通りである。積極的に外との関わりを持っているグループが2つ、存在した。1つのグループはその活動先が、「地域活動」であり男性がやや多い。もう一つのグループの活動先は「カルチャースクール」であり、女性が圧倒的に多い。次に、「仲間・家族」との交流を中心としているグループが男女比ほぼ同等で存在した。最後にそれらの活動・交流に積極的でない「消極派」のグループが存在し、男性の割合が高い。シニアは日々の活動からみても、1つに捉えることができず、多種多様である。

図2 日々の活動にもとづくシニアのグループ分け

	グループ名	構成比	男女比 (男：女)	地域活動への 参加	カルチャースク ールへの参加	仲間・家族との 交流
積極	地域で活躍	14%	6：4	○	×	○
	教室でいきいき	11%	2：8	×	○	○
中間	仲間・家族中心	50%	5：5	×	×	○
消極	消極派	25%	6：4	×	×	×

3— 教室でいきいき層のICT利用は平均的 伸びしろの可能性

次に日々の活動のグループとICTサービスの利用状況をみると、日々の活動が活発なほど、サービス利用は盛んであり、消極的であると盛んではない。ただ、日々の活動が積極的なグループの中で、「教室でいきいき」のグループのサービス利用は平均的であった。このグループは、サービスへの意欲は高く、教室活動で培ったシニア同士の横の繋がりがあため、こうしたネットワークを通して、今後サービスが広がっていく可能性がある。また、消極派は現在のサービス利用、今後のサービス意向ともに低く、人との交流も活発でない。ただ、「災害情報」に対する意向は、他のシニアと同じく高い。こういったグループの人にとどのようにして、サービス利用を促していくか、今後の社会的課題と言えよう。

日々の活動		外部との 接点	ICTサービスの利用・意向	
			現在利用している	今後利用してみたい（意向）
積極	地域で活躍	○多い	○(多い)	○(多い)
	教室でいきいき	○多い	△(平均)	○(多い)
中間	仲間・家族中心	×少ない	△(平均)	○(多い)
消極	消極派	×少ない	×(少ない)	×(少ない)

図3 日々の活動のグループとICTサービスの利用・意向

■その他

調査結果については、「データで読み解くスマホ・ケータイ利用トレンド 2016-2017 ケータイ社会白書」（2016年10月発刊）の中でも記載しています。

■調査概要（シニアの生活実態調査：訪問留置調査）

調査時期：2015年10～11月 調査対象：関東（1都6県）在住、60～79歳男女
 標本抽出法：QUOTA SAMPLING 性別・年齢・居住地（都市規模）で割付530サンプル回収

■問い合わせ先

グループの分け方、詳細な特性など、ご不明な点がございましたら、下記までご連絡ください。

株式会社NTT ドコモ モバイル社会研究所 msri-inq-ml@nttdocomo.com